

13. Balıkçı teknelerinin bölge ve uzunluklarına göre dağılımı
Number of fishing vessels by regions and lengths

Bölge Region	Toplam Total	UZUNLUK — LENGTH Metre — Metre			
		1 — 4,9	5 — 9,9	10 — 19,9	20 +
Toplam — Total	8 594	225	6 976	1 026	367
Doğu Karadeniz East Black Sea	2 697	100	2 222	202	173
Batı Karadeniz West Black Sea	622	44	506	62	10
Marmara Marmara	3 022	1	2 341	513	167
Ege Aegean	1 293	40	1 085	155	3
Akdeniz Mediterranean	960	40	822	84	14

14. Balıkçı teknelerinin bölge ve tayfa sayısına göre dağılımı
Number of fishing vessels by regions and number of crew

Bölge Region	Toplam araç sayısı Total number of fishing vessels	Tayfa kullan- mayan araçlar Fishing vessels without hired crew	Tayfa kullanan araçlar — Crew employed on fishing boats					
			Toplam Total	Tayfa sayısı grupları — Crew numbers group				
				1—4	5—9	10—19	20—29	30 +
Toplam — Total	8 594	5 372	3 222	2 665	258	174	82	43
Doğu Karadeniz East Black Sea	2 697	2 153	544	397	65	16	30	36
Batı Karadeniz West Black Sea	622	222	400	317	61	17	5	—
Marmara Marmara	3 022	1 859	1 163	900	86	125	45	7
Ege Aegean	1 293	751	542	511	19	12	—	—
Akdeniz Mediterranean	960	387	573	540	27	4	2	—

15. Balıkcı teknelerinin bölgelere, kullanma şekli ve türlerine göre dağılımı

Aracın türü	Toplam — Total					Doğu Karadeniz—East Blacksea					Batı Karadeniz — West Blacksea				
	Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Taşıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other	Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Taşıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other	Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Taşıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other
Toplam	8 594	554	554	466	7 020	2 697	53	120	148	2 376	623	49	30	8	535
Tram	244	10	44	15	175	113	3	33	15	62	—	—	—	—	—
Alametre	1 724	190	226	169	1 039	259	45	67	103	44	210	32	12	1	165
Taka	79	—	2	1	76	14	—	2	1	11	—	—	—	—	—
Ayazık	1 383	157	88	58	1 100	270	3	15	19	233	130	15	4	1	110
Kancabaş	1 511	87	31	18	1 175	259	—	—	—	259	104	—	10	—	94
Çirnik	2 316	10	1	77	2 228	1 721	—	—	—	1 721	63	—	1	1	60
Çektirme	224	10	—	11	203	30	—	—	1	29	51	—	—	—	51
Kayık	190	12	12	84	82	7	—	—	—	7	9	1	2	1	5
Karpuz Oturma	1 123	98	50	33	942	24	2	3	9	10	56	1	1	4	50

15. Number of fishing vessels by regions sort of operating types and kinds

Marmara — Marmara					Ege — Aegean					Akdeniz — Mediterranean					Type of vessels
Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Tıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other	Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Tıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other	Toplam Total	Trol Teknesi Trawler	Çingir Teknesi Purse seiner	Tıyıcı Tekne Carrier vessels	Diğer Other	
3 022	296	333	101	2 292	1 293	62	56	209	966	960	94	15	—	851	Total
34	—	11	—	23	8	—	—	—	3	89	2	—	—	87	Trola
1 214	102	240	44	828	29	2	4	21	2	12	9	3	—	—	Alametre
5	—	—	—	5	60	—	—	—	60	—	—	—	—	—	Taka
546	69	56	6	415	265	12	11	32	210	172	38	2	—	132	Aynakçı
402	51	1	18	332	285	1	20	—	264	261	35	—	—	226	Kancabaz
352	—	—	14	338	171	10	—	62	99	10	—	—	—	10	Çırnak
133	10	—	—	123	10	—	—	10	—	—	—	—	—	—	Çektieme
35	11	10	1	13	109	—	—	82	27	30	—	—	—	30	Kayık
301	53	15	18	215	356	32	21	2	301	386	10	10	—	366	Karpuz Oturma

16. Deniz ürünlerinin pazarlama şekli ve bölgelere göre dağılımı
Distribution of fishery products by marketing types and regions

Ton	Bölgeler Regions	Toplam üretim Total production	Satışlar toplamı Total of sales	SATIŞLAR — SALES					Kendi tüketimi Self consumption	Diğer Other	Tons
				Balık unu ve yağ fab. Fish meal and oil factories	Kooperatif ve birlikler Cooperative and associations	Komisyoncu (Kazımal tüccar) Commission agents wholesale dealer tradesman	Konserve fabrikası Canning factories	Tüketici Consumer			
	Toplam — Total	582 853	564 686	198 459	12 365	332 416	7 122	14 324	3 704	14 463	
	Doğu Karadeniz East Black Sea	319 544	315 103	185 927	662	124 922	2 710	882	1 182	3 259	
	Batı Karadeniz West Black Sea	154 589	144 355	12 501	1 221	121 287	3 768	5 573	1 160	9 074	
	Marmara Marmara	63 856	62 783	31	678	58 589	534	2 951	434	629	
	Ege Aegean	28 699	26 834	—	6 495	18 865	110	1 363	574	1 291	
	Akdeniz Mediterranean	16 165	15 611	—	3 302	8 753	—	3 556	354	200	

17. Deniz ürünlerinin pazarlama şekli ve bölgelere göre % dağılımı
Percent distribution of fishery products by marketing types and regions

Ton	Bölgeler Regions	Toplam üretim Total production	Satışlar toplamı Total of sales	SATIŞLAR — SALES					Kendi tüketimi Self consumption	Diğer Other	Tons
				Balık unu ve yağ fab. Fish meal and oil factories	Kooperatif ve birlikler Cooperative and associations	Komisyoncu (Kazımal tüccar) Commission agents wholesale dealer tradesman	Konserve fabrikası Canning factories	Tüketici Consumer			
	Toplam — Total	100.0	96.9	35.1	2.2	58.9	1.3	2.5	0.6	2.5	
	Doğu Karadeniz East Black Sea	100.0	98.6	59.0	0.2	39.6	0.9	0.3	0.4	1.0	
	Batı Karadeniz West Black Sea	100.0	93.4	8.7	0.8	84.0	2.6	3.9	0.7	5.9	
	Marmara Marmara	100.0	98.3	0.1	1.1	93.3	0.8	4.7	0.7	1.0	
	Ege Aegean	100.0	93.5	—	24.2	70.3	0.4	5.1	2.0	4.5	
	Akdeniz Mediterranean	100.0	96.6	—	21.1	56.1	—	22.8	2.2	1.2	

第二章 海洋関連禁令

第一部 トロール禁止

各種トロールの禁止

第3条-1380号水産物法24条、水産物条令34条で述べるように湖水、マルマラ海、イスタンブール海峡とチャナッカレ海峡、

サムソン県チャルトゥ岬からソ連国境に至る我国領海、バジュカヤ(バシュロズ)岬(北緯 $42^{\circ}05'40''$ 東経 $35^{\circ}01'01''$)、スィノブ半島北岬(北緯 $42^{\circ}02'30''$ 東経 $35^{\circ}11'30''$)とボズテベ岬(スィノブ岬)ガルゼ・キョシュク岬を結ぶ線と海岸線の間にある諸地域及び

サロズ湾のエディルネ県内にあるトゥズラ湖口(北緯 $40^{\circ}36'51''$ 東経 $26^{\circ}28'36''$)とチャナッカレ県内にあるカラアーチ港(北緯 $20^{\circ}26'33''$ 東経 $26^{\circ}27'24''$)を結ぶ線の内側の地域においては、

各種のトロールによる水産物の捕獲を禁止する。

底曳きトロールの禁止

第4条-底曳きトロールに対して、場所、時期と詳細に関して指定された禁止は以下の通りである。

1) 第3条で指定された場所と我国領海沿岸から3マイルの距離に至る部分では、底曳きトロールで水産物を捕獲すること、および3マイルより離れた部分では底曳きトロールを1隻以上の船でひくことを禁止する。

2) 黒海のサムソン県チャルトゥ岬から東経 34° までの間の我国領海、東経 34° からブルガリア国境に至る沿岸地帯の海岸から6マイルの距離内では、1990年5月1日から9月15日まで、

地中海では、フィネケ湾の東にある、ヤルドウムジュ岬から(タシュルク岬)シリア国境に至る我国領海では、1990年5月1日から1990年8月15日まで、

ムーラ県の海岸線のテクアーチ岬とインジェ岬を結ぶ線の東にある地域では1990年12月1日から1991年1月31日までの間、

底曳きトロールによる水産物捕獲を禁止する。

3) 底曳きトロール網の最小の目の大きさは22mmより小さくしてはいけない。袋の外におかれる保護の目の広さは42mm以下ではいけない。

水産物条令の第15条(C)項の第3段で、「モトカタクチイワシ(Engraulis encrasicolus)、ヒロオビトオゴロ(Atherina presbyter)、ニジイワシ(Clupea pilchardus)、

Papalina(イワシの幼魚)を捕獲する際使われる以外の」という部分にエビ(Palaemon)

やイサギダマツ(Maena vulgaris)を追加し、「モトカタクチイワシ、ヒロオビトオゴ

ロ、ニシイワシ、Papalina-Caca (*clupea sprattus*)、エビ、イサキダマツの捕獲に使用される以外の」という形にする。

4) 底曳き網を、禁止された場所及び時期に、海或いは船で集めて甲板に取めた状態で置いてはならない。ただし、船倉で、包装して輸送することはできる。

最小の目の広さの寸法より小さい底曳きトロールの網は、どのような方法であれ、船上に置くことを禁止する。

別に、第3条の第1及び第2段で指定された場所を通過するトロール船は；当地区へ来る者は停泊地とその時期を、

当地区から出る者は、行き先と捕獲地域を知らせて、省県局 (Bakanlık İl Müdürlük) 作成の許可書を得、イスタンブル海峡とチャナッカレ海峡から入る者は、トロールに押印を受け、出る際に申告する義務がある。

中層曳トロール

第5条-1380号法令で指定する場所以外で、中層曳トロールを15 mより (水深 8 fathom) 浅い海で引くこと、及び1990年4月15日から9月1日の間、水産物の獲得に使用することを禁止する。

第二部 種と寸法の禁令

捕獲が完全に禁止される種

第6条-イルカ、アザラシ、海マス、海ガメ、チョウザメ (*Huso-Huso* を生じる 140 cm 以上の寸法のもの以外) を、湖沼を含む全ての我国領海で捕獲すること、及び紅さんごと黒さんごの収集を禁止する。

エビの捕獲

第7条-エビ (*Palaeon*) について時期、場所、捕獲方法に関して適用される禁示は以下の通りである。

1) 地中海でフェニケ湾の東にあるヤルドウムジュ岬から (タシユルク岬) シリア国境に至る我国領海では、1990年5月1日から8月15日まで、

マルマラ海のチャナッカレ海峡とイスタンブル海峡では、1990年5月1日から10月1日の間、各種の獲得方法によるエビの捕獲を禁止する。

しかし、マルマラ海のチャナッカレ海峡では *Penaeus Kerathurus* 種が、1990年5月1日から10月1日の間 *uzatma aglari* (張った網) で捕獲できる。

明らかにされた場所以外の我国領海では、1990年5月1日から9月1日の間、エビの *uzama aglari* 以外のいかなる獲得方法による捕獲も禁止する。

マルマラ海のテキルダール県、マルマラ・エレリ、アダテベ岬 (北緯 40°50'00" 東

経 27°58' 00")とバンドゥルマ・クゼイ・メンディレク・ウジュ・フェネリ (北緯 40° 22'00" 東経 27°50' 00")間を結ぶ線の東側にある地域では、アルガルナ (起動機船) でのエビの捕獲を禁止する。しかし、指定された地域の内側にある (北緯 48°41'30" 東経 27°58'00"、北緯 40°40' 36" 東経 28°30'00" 及び北緯 40°28'36" 東経 28°02'12") の緯度・経度間にある地域ではアルガルナによるエビの捕獲ができる。

マルマラ海、イスタンブル海峡とチャナッカレ海峡では、1986年に許可書が与えられたアルガルナ以外に新しいものを作り使用することを禁止する。アルガルナで獲得されるエビの原産地文書のない輸送及び売買は行えない。

- 2) ギョクス川河口 (北緯 36°18'30" 東経 34°02'30")と、トルコ・シリア国境の海と合する地点 (北緯 35°55'50" 東経 35°55'01")の間を結ぶ線の北側にあり、かつ底曳きトロールの禁止された地域では、エビ・トロールの詳細が指定されるまで;トルバ (袋) の長さ 5 m、トンネルと肩の部分を入れて 8 m、翼は 9 m 以上にならないという条件で、合計した網の長さが 22 m を越えず、トルバの目の大きさが 22mm、トルバの外側についた付加物の目の大きさが 48mm、トンネルと肩の部分にある目の大きさが 48mm 以下にならず、Maca (モールド) とドアの間に使われるロープは鉛がなく、長さが最高 26 m である、網で、エビの捕獲ができる。

上記に詳細を指定した網により、この網を使用することが自由な場所で、1990年 4月 1日から 5月 1日と 1990年 8月 15日から 1990年 9月 30日の間は 6時から 20時、1990年 10月 1日から 1991年 5月 31日の間は 7時から 19時の間エビの捕獲ができる。

上記で特徴を指定したエビ網を作った漁師は、省の地方県局へ申請して許可書をもらい、許可書をもらったら省の地方県局へ申請して、1990年 7月 1日から 8月 15日の間にその網に査証を受けることが義務づけられる。

- 3) 同じ航海で、エビ・トロールと底曳きトロールの両方を行うことはできない。海に出る航海は、その漁でいかなる網を使用しようとも、出入りする時、税関局で税関のない場所では地区の憲兵警察署で台帳にその網について押印を受ける。その漁で使用しない網は船倉あるいは船首下に干して保管することができる。
- 4) エーゲ海の、アイドゥン県ディル岬からギリシャ国境 (メリチ・ネフリ) に至る我国領海では、アルガルナによるエビの捕獲はいつでも禁止する。

Deniz Salyangozu (海カタツムリ) の捕獲

第 8 条—全我国領海で 1990年 7月 15日から 9月 1日の間、各種の捕獲方法による Deniz Salyangozu の捕獲を禁止する。

捕獲の自由な時期には、Deniz Salyangozu を 7時から 17時の間、獲得できる。

上記に指定した期間以外は、口の広さ最大 3 m、口の深さ最大 40cm、トルバの長さ最大 1 m、トルバの目の大きさが 45mm のアルガルナで、Deniz Salyangozu を獲得できる。

ロブスターの捕獲

第9条—ロブスターの捕獲は1990年9月15日から1991年3月15日の間禁止する。ロブスターの捕獲で、目の大きさ110 mm以下の *uzatma aglari* は使用できない。

スナイガイの捕獲

第10条—白スナイガイは全我国領海で、チャナッカレ海峡とイスタンブール海峡で、1990年6月1日から9月1日の間、各種の獲得方法での獲得を禁止する。

白スナイガイ獲得で使用されるアルガルナとドレチュ網の大きさは80 cm以上、網の奥行き20 cm以上、外の空間2 cm以上、トルバ網の長さ100 cm以上、トルバ網の目の大きさ1 cm以下であってはならない。

2) *Akivides* は、エーゲ海、地中海における我国領海で1990年7月1日から11月15日、マルマラ海、地中海、イスタンブール海峡とチャナッカレ海峡では、1990年8月15日から9月15日の間各種の方法で捕獲することを禁止する。

Akivides の捕獲で使用されるふるいは、ふるいの目の大きさ22 mm以下であってはならない。

イシビラメの捕獲

第11条—全我国領海で、1990年5月1日から7月1日の間、各種の方法でのイシビラメ (*Rhombus maximus*) の捕獲を禁止する。

バラケタ (たくさんのフックがついた長いつり竿) によるイシビラメの捕獲はいつでも禁止する。

モトハガツオ、カツオ、ニシイワシの捕獲

第12条—トウムの我国領海で1990年4月1日から9日の間、各種の獲得方法でのモトハガツオ (*Pelamys sarda*) とカツオの捕獲を禁止する。

地中海、フィネケ半島の東にあるヤルドゥムジュ岬から (タシュルク岬) シリア国境に至る我国領海では、1990年7月1日から9月1日の間、各種の獲得方法によるニシイワシ (*Clupea pickhardus*) の捕獲を禁止する。

海藻の獲得

オゴノリ種海藻は、全我国領海で1990年4月1日から7月15日の間、捕獲を禁止する。

自由な時期なら最小1/3の胞子を落とすような方法で、交代で獲得することは、省県局の許可書が必要である。

海綿の獲得

第14条—エーゲ海の、エディルネ県、エネズ郡のギリシャ国境からバルクエスイル県、エドレミト郡のババ岬に至る我国領海、チャナッカレ海峡、マルマラ海での各種の海綿の捕獲を禁止する。海綿の捕獲に使用されるカンカウア (*Kankava*) の口の大きさは9 m以上ではいけない。BGと気孔の口径の制限は廃止された。

自由な場所において、口径20cm以下のカバ（大きい）海綿、15cm以下のメラト海綿、口径6cm以下のマンダバ海綿、ソリス海綿の捕獲を禁止する。

寸法の禁止

第15条一下記に捕獲可能な最小寸法を指定した水産物より小さいものの捕獲を禁止する。

種	最小寸法 (cm)
マダロ	90
イシビラメ	36
カナダシラ (Trigla hirund)	35
Orfos, Lagos, Yazili Orkinoz (文字マダロ)	30
Has, Sivriburun (パラムートの類)、灰色ボラ	30
他のボラ	20
Minekop, Umbrina Cirrhosa	25
モトハガツオ (pplamys sarda)、サルアウズ：コルビーン	25
Halili, Grauyus	20
Signagrif (Deutex Vulgaris)、タイセイヨウサバ (Scomber scombrus)、Aky (Leer fish)、アミキリ (Gomnodom saltator)、スペインサバ (Scomber colias)、ニシウミスズキ (Labrax labrax)	18
Barbunya	13
Cipura, サンゴ, Karagoz, Dudakli Kefal 唇ボラ	15
Tekir (Mugil surmulletus)	11
ニシマアジ (Trachurus trachurus)	11
モトカタクチイワシ (Engraulis encrasicolus)	9☆
Deniz Bocegi (クレイフィッシュ)、Istakoz (ロブスター)	20☆
白スナイガイ	2
Akivides	2.2

(☆)の数字が10%小さい寸法のもものは許可される。

収集資料リスト

1. Fisheries Statistics 1984, 1985, 1986, 1987
2. TARIM ORMAN VE KOYISLERI BAKANLIGI (漁民に配布している漁業法令・規則集、トルコ語)
3. 調査対象海域海図 (1 / 50,000)
4. Review of Turkish Fisheries and its Facilities prepared by Dokuz Eylul University, Institute of Marine Sciences and Technology, Marine Sciences Department

1. The first part of the document discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions and activities. It emphasizes that proper record-keeping is essential for transparency and accountability, particularly in the context of public administration and government operations. The text highlights how detailed records can help identify inefficiencies, prevent fraud, and ensure that resources are used effectively.

2. The second part of the document focuses on the role of technology in modern record-keeping. It explores how digital systems and software solutions can streamline the process of data collection, storage, and retrieval. The author notes that while technology offers significant advantages, it also presents challenges such as data security, system integration, and the need for staff training. The text suggests that a balanced approach, combining traditional methods with modern technology, is often the most effective solution.

3. The third part of the document addresses the legal and ethical considerations surrounding record-keeping. It discusses the importance of ensuring that records are maintained in accordance with applicable laws and regulations. The text also touches on the ethical implications of data privacy and the potential for misuse of information. The author argues that organizations must establish clear policies and procedures to protect sensitive data and ensure that records are used only for their intended purposes.

4. The fourth part of the document provides practical advice for implementing a robust record-keeping system. It suggests that organizations should start by conducting a thorough audit of their current record-keeping practices. This audit should identify strengths, weaknesses, and areas for improvement. The text then offers several key recommendations, including the importance of regular backups, the use of secure storage solutions, and the implementation of strict access controls. The author also emphasizes the need for ongoing monitoring and evaluation to ensure that the system remains effective and up-to-date.

5. The final part of the document concludes by reiterating the significance of record-keeping in the modern era. It states that as organizations continue to grow and evolve, the ability to maintain accurate and accessible records will become increasingly critical. The text encourages organizations to embrace a proactive approach to record-keeping, one that prioritizes accuracy, security, and efficiency. By doing so, organizations can ensure that they are well-prepared to meet the challenges of the future.

JICA